

この人と 話そう

姫路獨協大
プレイルーム運営

太田 篤志さん

つていてます。

自分の力を試して

《太田さんが発達障害の子
どもたちのために行つてい
る、姫路獨協大(兵庫県姫
路市)プレイルームの活動
について教えてください》

第2、第3土曜日に1時間
交替で5グループ計約60人の
児童や児童が集まります。天
井からつり下げたスイング
や、円筒状のビニールに入っ
たり、多量のプラスチックボ
ールが入ったボールプールの
上に飛び降りたりして、思い
きり体を動かします。約50種
類の遊具を備え大学教員とボ
ランティアの学生、普段は保
育士や学校教員をしている研
修生ら十数名が付き添いま
す。遊び方を指示するのでは
なく、子どもたちがやってみ
たいことを援助する立場で行

ります。

《そういうた動作は、発達
障害のある子どもたちにど
んな効果があるのですか》

発達障害の子は学校での活
動が難し過ぎて、楽しく遊ぶ
経験がなかなかできません。
自分の力を存分に試して「俺
って結構いってるなあ」とい
う自己効力感を感じてほしい
ですね。

彼らの多くは動きの刺激
(前庭感覚)や筋肉の刺激(固
有受容感覚)を強く求めるの
が特徴で、日常生活での落ち
着きのなさや多動の原因にな
っています。ここではそういう
感覚刺激を十分に満たせ
るようになっています。

《親からも人気を集めてい
りますね》

最初は全く動かなかった子
が何年も通つてくるうちに、
高いところから飛び降りたり
して自信をつけた例はありま
す。でも私の基本は遊び心。
いい体験をして楽しんでくれ
く働く」「頑張る」ことは教
育者や学校教員をしている研
修生ら十数名が付き添いま
す。遊び方を指示するのでは
なく、子どもたちがやってみ
たいことを援助する立場で行

るようですね》

公園や映画館へ連れて行つ
て、そこでお子さんがパニック
を起こしたらしんどいで
すね。ここなら何があつても
みんな理解してくれるし、
休憩したり仲間を作つたり
しながら時間を過ごすことが
できます。開設して6年目で
すが、参加は年々増えていま
す。

《生活習慣の改善にもつな
がりますね》

最初は全く動かなかった子
が何年も通つてくるうちに、
高いところから飛び降りたり
して自信をつけた例はあります。
でも私の基本は遊び心。
など成人の方の施設に行く
と「趣味がない」とか「休み
に何をしていいか分からな
い」とかでみんな困っています。

《生活習慣の改善にもつな
がりますね》

最初は全く動かなかった子
が何年も通つてくるうちに、
高いところから飛び降りたり
して自信をつけた例はあります。
でも私の基本は遊び心。
など成人の方の施設に行く
と「趣味がない」とか「休み
に何をしていいか分からな
い」とかでみんな困っています。

《生活習慣の改善にもつな
がりますね》

最初は全く動かなかった子
が何年も通つてくるうちに、
高いところから飛び降りたり
して自信をつけた例はあります。
でも私の基本は遊び心。
など成人の方の施設に行く
と「趣味がない」とか「休み
に何をしていいか分からな
い」とかでみんな困っています。

楽しく遊び感覚刺激満たす

感覚統合療法といいます。

動きの感覚が分からない人は
どうしてもバランスが悪くな
ってしまう。そこでトンネル

などの3次元空間を使って、
多様な環境に対して感覚を使
いこなし身体を適切に動かし
ていくことを学ぶ療法です。

ただ私は療法と言うより楽し
みを前面にしているのが特徴
と言えば特徴ですね。

また、1970年代にオラ
ンダで始まったスマーズレン
という考え方を取り入れてい
ます。障害のある人に受け入
れやすい感覚刺激に満たされ
た空間の中で、利用者が自分
にとって意味のある活動に携
わることです。プレイルーム
もその実践の一つで、隣室で
は薄暗い中にベッドやライト
を備えリラックスできるよう
になっています。

《発達障害の研究を始めた
とき》

1968年、福岡県生まれ。長崎大医療技術短

期大学部卒業。長崎県内の保育園と重症心身障害

児施設の勤務を経て広島大医学部助手。2006

年春、姫路獨協大に医療保健学部が設置されたの

に伴い教授として着任。作業療法士。日本感覚統

合学会常任理事。日本スマーズレン協会理事、事

務局担当。感覚刺激を目的とした手軽なおもちゃ
を販売する「プレイフルネス」を個人事業として
行つてている。

詠

《発達障害の特徴を一般
人に理解してもらう工夫も
しているのですか》

講演では、自分の体の大さ
さが分からずあちこちぶつか
つてしまふ感覚を理解しても
立てるレジで素早くお金を払
つたり、たとえば一円玉を五
百円など別の貨幣価値に見
立てるレジで素早くお金を払
つてもらうロールプレイで、
計算できない感覚を少しでも
知つてもらつたりしていま
す。

「かわいそう」と捉えるの
ではなく、感じ方の違いを知り、
どう補つていくか。そういう
共感的理解を基盤に支援を
するのが私の方針です。発達
障害は周囲の理解があればう
まくやりこなせる部分が結構
大きいのです。



天井からつり下げたスイングや円筒状のビニールで回転する。「発達障害のある子の多くは感覚刺激が大好き。ここで楽しんでほしいです」
(兵庫県姫路市・姫路獨協大プレイルーム)

発達障害の子の「通訳」に

感覚統合療法といいます。

動きの感覚が分からない人は
どうしてもバランスが悪くな
ってしまう。

そこでトンネル

などの3次元空間を使って、
多様な環境に対して感覚を使
いこなし身体を適切に動かし
ていくことを学ぶ療法です。

ただ私は療法と言うより楽し
みを前面にしているのが特徴
と言えば特徴ですね。

また、1970年代にオラ
ンダで始まったスマーズレン

という考え方を取り入れてい
ます。障害のある人に受け入
れやすい感覚刺激に満たされ
た空間の中で、利用者が自分
にとって意味のある活動に携
わることです。プレイルーム
もその実践の一つで、隣室で
は薄暗い中にベッドやライト
を備えリラックスできるよう
になっています。

《発達障害の研究を始めた
とき》

1968年、福岡県生まれ。長崎大医療技術短
期大学部卒業。長崎県内の保育園と重症心身障害
児施設の勤務を経て広島大医学部助手。2006
年春、姫路獨協大に医療保健学部が設置されたの
に伴い教授として着任。作業療法士。日本感覚統
合学会常任理事。日本スマーズレン協会理事、事
務局担当。感覚刺激を目的とした手軽なおもちゃ
を販売する「プレイフルネス」を個人事業として
行つてている。

